

所属	リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻 修士課程	修了年度	2020 年度
氏名	前嶋 洋平	指導教員 (主査)	小林 幸治

論文題目	医療観察法の入院医療に従事する作業療法士が経験知を獲得し 役割を遂行出来るようになるプロセス
------	---

本文概要	
<p><b>「目的」</b> 本研究の目的は、医療観察法病棟の作業療法士（以下、OTR）が、現場で経験した困難を克服し、やり甲斐を感じて OTR らしく仕事ができるようになる過程を明らかにし、この分野の OTR への教育体制やサポート体制、作業療法技術向上の方向性を示すことである。</p> <p><b>「方法」</b> 医療観察法病棟での作業療法実践経験を有する OTR 9 名への半構造化面接によるデータ収集。分析方法には修正版グランデッド・セオリー・アプローチを使用。</p> <p><b>「結果」</b> 医療観察法の入院医療に従事する OTR が経験知を獲得し役割を遂行出来るようになるプロセスは、1 つのコアカテゴリー、5 つのカテゴリー、10 個のサブカテゴリー、32 の概念で構成された。医療観察法の入院医療に従事する OTR が経験知を獲得し役割を遂行出来るようになるプロセスは、[安全に対象者らしく暮らせるための役割]、[医療観察法病棟作業療法士の経験知]そして[実践の手ごたえ]という 3 つのカテゴリーがサイクルを形成し相互影響することでコアカテゴリー <b>【手ごたえ・経験知・役割サイクル】</b> を構成している。</p> <p><b>「考察」</b> [作業療法士が感じるネガティブな経験]や[現状に対する不満]というカテゴリーが <b>【手ごたえ・経験知・役割サイクル】</b> へ相互影響を常に与えていると考えられる。本研究で得られた <b>【手ごたえ・経験知・役割サイクル】</b> 中には主観的なリカバリーの観点が含まれており、OTR が主観的なリカバリーを大切にしていることが考察された。主観的なリカバリーを促進することは、OTR を含めた MDT 全員が病状や他害行為だけでない入院対象者の本来の健康的な姿を理解することにもつながると考える。</p> <p><b>「結論」</b> 医療観察法病棟作業療法分野の教育体制やサポート体制、作業療法技術向上のためには、入院対象者のその人らしい生活や健康な部分に注目し、主観的なリカバリーの観点を入れた医療観察法病棟作業療法オリジナルの評価用紙の開発の必要性があると考えられる。</p>	